

9	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15105001	斬新な特定位置占拠型配位子の設計と高配位 典型元素化合物の創製	川島 隆幸 (東京大学・大学院理 学系研究科・教授)	A

(意見等)

研究状況報告書ならびに添付されている発表論文5編をみると、順調に研究は進捗しており、十分な成果が上がっている。今後は、これまで以上に困難な課題、たとえば5位にケイ素やゲルマニウムを有する5配位リン化合物の合成が残されているが、これらも研究期間内に達成されることを期待する。

本課題研究着手時に予定された計画どおりほぼ順調に進行していることは評価されるが、予想を超えた新事実の発見があればもう一段大きく飛躍するものと思われる。セレンディピティを待つのではなく、積極的に新発見に結びつきそうな実験もあわせて行っていただきたい。

有機元素化学分野、反応機構、構造有機化学系の分野に大きな影響を与えるすばらしい研究だと判断する。ただ、基礎的な分野のため有機合成や実用性という観点からみると少し弱く感じるため、この点にも少しは配慮して研究を進めていただきたい。

10	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15105003	細胞内及び膜界面の分子を可視化する新手法 の創案と展開	梅澤 喜夫 (東京大学・大学院理 学系研究科・教授)	A

(意見等)

本研究は独自の発想に基づく細胞内情報分子の可視化に関するものであり、独創性が高く、その成果や方法論は将来色々な生体分子や他の材料科学分野にも応用が可能と期待される。細胞内、細胞間情報分子の可視化、細胞内オルガネラ局在タンパク質の可視化検出、DNA及び動作配列の可視化決定法に関して成果を上げ、研究は順調に進展している。このまま進めば、研究目的に沿った成果が得られると期待される。